

【学校教育目標】

自らを高める強い意志と
しなやかな心をもつ
子どもを育成する

❖ 「自らを高める」子

子どもたちが学習や学校生活の中で努力を積み重ね、その成果を実感する経験を通して、自己肯定感・自尊感情とともにウェルビーイングを高めることをめざします。豊かな人間関係の中で自分らしい生き方を探求し、目標に向かって主体的に取り組む姿を育てます。

❖ 「強い意志」をもつ子

ここで示す「強い意志」とは、頑固な自己主張ではなく、困難に向き合い粘り強くやり抜こうとする耐性や持久力を指します。自分のためだけではなく、家族や地域社会に貢献しようとする思いやりと責任感をもって行動できる子どもの育成をめざします。

❖ 「しなやかな心」をもつ子

VUCAの時代を生きる子どもたちにとって、柔軟に考え、新しい価値を取り入れながら自らを変革する力は不可欠です。困難に直面しても折れず、自分の考えを大切にし、他者との関わりの中で再び立ち上がることのできる「しなり（弾力）」をもった心の育成を図ります。

目指す学校像

- ・児童の自己指導能力を伸ばし、未来を創造する子どもを育成する南大内校
- ・**児童一人一人の人権と多様性を尊重する南大内校**
- ・家庭・地域社会と連携する南大内校

目指す子ども像

- 自主** 伝統と文化を受け継ぎ、未来を創造し、自ら学ぶ子
- 自律** しなやかな心と豊かな感性をもち、正しい判断ができる子
- 共生** 社会の一員としての自覚をもち、自分もまわりも大切にする子

目指す教職員像

- ・教育者としての職責を自覚し、資質・指導力を高め合える教職員
- ・一人一人の子どもを大切にし、子どもの命を徹底的に守りきる教職員
- ・丁寧な教材研究と徹底した児童理解を図り、カリキュラムマネジメントの視点をもって実践力を高め合える教職員
- ・報連相を確実にし、職種・分掌・学年など、それぞれの立場で学校運営に参画する教職員
- ・学校全体を見て、チームとして同じ方向で目標に向かって取り組む教職員
- ・家庭や地域と協働・連携するとともに、校種間や関係機関とも連携を図ることで教育実践の日常化と積極的な情報発信が図れる教職員

温かい学校風土の醸成

南大内小の強みは、

- 👉 小さな学校だからこそ一人ひとりにしっかり目が届くこと
- 👉 地域の方々が温かく学校を支えてくれること
- 👉 教職員の連携・団結力が強いこと

これらの力は「温かい学校風土」をつくる上で、とても大きな土台になります。この良さをさらに育てていくために、大切にしたいことを共有します。

1. 子どもの小さな成長に気づき、言葉にする

あいさつができた。苦手なことに挑戦できた。友だちにやさしく声をかけていた。
小規模校だからこそ、こうした“良さ”を職員全員で見つけられます。小さな承認が、子どもの大きな自信につながります。

2. 大人同士の温かい関係づくりを大切に

挨拶を交わす。ねぎらいの言葉をかけ合う。困っている時に自然に手を差し伸べる。
教職員の雰囲気は、子どもにそのまま伝わります。本校の職員・教員の雰囲気は誇れるものです。大人があたたかい学校は、子どももあたたかくなれます。心理的安全性の高い関係づくりをめざします。

3. 失敗を共有し合える“安心感のある職場”に

新しいことに挑戦したことを認め合う。うまくいかなかったことも安心して話せる。
「挑戦できる大人」がいる学校は、「挑戦できる子ども」を育てます。

4. チーム南大内小として、全員で子どもを支える

どの子にも複数の大人の目が届く。日々の小さな情報も共有する。気になる子には、教職員全員でやさしく関わる。
強みを生かし、“みんなで見守る学校”をさらに磨いていきましょう。